

令和4年度 第3回沖縄県がん診療連携協議会 離島・へき地部会議事要旨

日 時：令和4年11月8日(火)15:30~17:10

場 所：Zoom を利用した Web 会議

出 席：13名

松村敏信(県立宮古病院)、赤松道成(北部地区医師会病院)、新崎博美(県立宮古病院)、外間早紀子(沖縄県保健医療部健康長寿課)、我如古春美(北部地区医師会病院)、戸板孝文(県立中部病院)、朝倉義崇(県立中部病院、森隆弘代理出席)、友利寛文(那覇市立病院)、真栄里隆代(ゆうかぎの会)、砂川洋子(ゆうかぎの会)、田盛亜紀子(やいまゆんたく会)、有賀拓郎(琉球大学病院)、増田昌人(琉球大学病院がんセンター)

欠 席：4名

菊池馨(県立八重山病院)、石田浩子(県立八重山病院)、吉田幸生(県立中部病院)、黒島富士子(やいまゆんたく会)

陪 席：2名

比嘉優花、並里亜衣(琉大病院がんセンター)

〈報告事項〉

1. 令和4年度 第2回離島・へき地部会議事要旨について

松村部会長より資料1に基づき、令和4年度第2回離島・へき地部会議事要旨について説明があり、変更等があれば事務局へ連絡するよう説明があった。

2. その他

特になし。

〈協議事項〉

1. 離島・へき地における疾患別対応状況の改訂について

事務局より9月に疾患別対応状況について更新を行ったとの報告があった。変更等あれば事務局へ連絡するよう説明があった。

2. 各病院の課題について

【県立八重山病院】委員欠席の為、報告等なし。

【北部地区医師会病院】我如古委員より患者会の発足の件で、ピアサポーターを通して確認、交渉に入っているとの報告があった。また、地域性から周りに知られたくないとの要望が多く、患者会が発足してもあまり参加してもらえないという現状にあり、課題でもあるとの説明があった。

【県立宮古病院】松村部会長より、胃の検診が3%、大腸が5%と検診率が低く、政府の目指している50%には程遠い状況にあるとの説明があった。

3. 療養場所ガイドの改訂について

事務局の比嘉より療養場所ガイドに関する説明があった。

戸板委員より放射線治療に関する説明に関して、「破壊する」などの表現が患者さんに対して相応しくないのではないかとの意見があった。他の表現があれば事務局へ連絡するとの説明があった。

松村部会長より、「拠点」とはどのような意味なのかとの質問があった。編集担当の比嘉より「拠点」は沖縄県がん診療拠点病院、「専門」は沖縄県における専門的にがん診療を行っている施設との説明があった。

増田委員より離島の各診療所に連絡を取り、確認の作業を進めていくとの説明があった。また「竹富町・与那国」「石垣市」「多良間村」「宮古島市」「伊平屋村・伊是名村・伊江村」「本島北部」「本島周辺の離島」「久米島」の8分冊を進めていくとの説明があった。雛形が出来次第、委員の皆様へ送付し確認をお願いするとの説明があった。また、放射線治療に関しては戸板委員へチェックをお願いするとの説明があった。

4. 検診データについて

増田委員より資料4-1に基づき、検診データについて説明があった。

資料4-2に関しては各自確認するよう説明があった。

5. その他

①「島外の医療施設における治療等の必要性に係る意見書」の定額化について

田盛委員より前回の協議会で提案した要望書について、離島・へき地部会から沖縄県へ文書を出してはどうかとの再提案があった。自由診療の為、各病院への提案は難しいのではないかとの意見になり今回は見送られることとなった。

②認定専門看護師の配置について

真栄里委員より、来年度の人事配置に向けて認定専門看護師をどの病院にも配置してほしいとの要望があった。

新崎委員より各病院の認定専門看護師から交流の場がほしいとの要望があるとの説明があった。県立病院でも配置に偏りがあるので、現状を把握する場を設けてもいいのではないかとの意見があった。

戸板委員より病院事業局へ現状調査に関して、要望書を検討してもいいのではないかとの意見があった。

増田委員よりディスカッションする場を設けてもいいのではないかとの意見があった。